

研修会

里見氏の里海を観にいらっしゃい

斎藤 清 (船橋市)

開催日：2011年10月1日（土） 天候：曇り時々晴れ

場 所：富浦海岸（原岡海岸・豊岡海岸）・岡本城址

講 師：大原則彦、地元の歴史民話ボランティアの方2名

参加者：12名（指導員8名 他4名）

今回の自然観察会は海岸散策と富浦岡本城の歴史に触れる旅であった。

原岡海岸・豊岡海岸は富浦にある隣接した海岸で夏は海水浴客で賑わう。此の海岸の間に在る富浦港は伊勢エビの水揚げ豊かな海である。海岸を散策した時は海水浴客も居なくなり静かな綺麗な海岸で、豊かな海を象徴する大きなサザエや房総ホラガイの欠片や大きなカジメ（海藻）・イシサンゴの欠片等（サンゴの北限とされている）が砂浜に打ち上げられおり、そのサンプルを採集するのに皆夢中であった。

案内して頂いた大原氏は投網を持参し、海岸にいる小魚を捕って現状の浜の姿を見せて頂きましたが、6回の投網を打ったけれど5～6cmのクロダイの稚魚2匹しか捕れませんでした。隣の五井海岸で30年前は稚魚でも、カレイ・イシモチ・クサフグ・イワシ・ヒイラギ等多種の魚が投網で捕れていた記憶が有ります。また、大原氏が河岸掃除で使う金属探索機の操作を披露して頂き、波打ち際に打ち上げられたカジメは細く切りヒジキと同じ様に煮つけて食べると美味しいそうで、地元の漁師の食文化の一部だそうです。色々参考になりました。

昼食後地元のボランティアの方に岡本城跡を案内して頂きました。岡本城は里見氏家臣の岡本豊前守氏元の居城でその後、1580年ころ相続争いで里見義頼が引き継いだ城であり、始め想像していましたが、滝沢馬琴著「里見八犬伝」の小説とは歴史的に何も関係無い事が分り少しがっかりでした。昔東京湾を通る船の通行税を取る（海賊）組織であり、歴史の真実が伝わった。まだ発掘中で不明な点が多くあるとの事でしたが、周りの森はスギやヒノキが無く、昔の海岸にある森がそのまま保存（？）されており、道脇の木にコクワガタのメスが姿を現してくれた森でした。



岡本城址から見た富浦港



カジメ



投網を打つ大原さん